

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「クラブと地区の
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「しなやかな変化で
奉仕を高めましょう」



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー
2560地区ガバナー 新保 清久
高田ロータリー会長 橋詰 敏一
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守
小池 猛紀

第30回例会 ■ 2月23日(金)

No.30

会長挨拶 ● 橋詰 敏一



毎週金曜日は、このところ天気
当り日で、本日も日差しがまばゆく
雪原を輝かせています。本日の卓話
のお話にも通ずる富岡ホワイトの世
界が美しく広がっております。本日
は越後春日山 RC より、風間パスト会長様を始め
4名の方々より訪問いただきました。ありがと
うございます。私も7分区の各クラブを訪問しな
ければと思っておりますが、忙しさにかこつけて
未だに実行できておりません。年度が終わる前
にはと考えております。ましてや当クラブより大
谷ガバナーノミニを輩出させていただいており
ますので、なおさらです。

また、本日23日は「皇太子徳仁親王」の満58
歳の誕生日であります。私は59歳ですので、
同年代で勝手に親近感を感じております。皇太子
は山登りもお好きなので、より一層その思いを強
くしております。残る1年余りで皇位継承をされ
ますが、さぞかしご多忙であられると推察する次
第です。ご健康で活躍され、今上天皇のように国
民に寄り添った天皇を目指していただけたらと願
います。残り1年で「平成」が終わります。年度

末を迎える中、私共国民も気を引き締めて参らね
ばと考えるのは私だけではないと思います。そし
て本日は、1905年2月23日ロータリークラブ誕
生の日でもあります。シカゴの青年弁護士ポール・
ハリスと友人3人とで始めたロータリークラブ。
今では200を超える国と地域に122万人を超える
仲間がおります。メンバーの皆さんと共にさらに
発展させて行きましょう。

出席報告

出席率 96.30%

ビジター

風間常樹彦君（越後春日山 RC パスト会長）
徳道 茂君・武田佳子君・松田光代君（越後春日
山 RC）

メイクアップ

佐藤教彦君・杉山高男君（2/24 障がい者就労促
進・地区財団活動資金活用セミナー）

会員インフォメーション

堀井靖功君——マルケグループ合同葬 会葬御礼
前島密 故郷との絆 第4回講演会のご案内

幹事報告

配布物：週報No. 29

回覧：前島密 故郷との絆 第4回講演会・春の特別音楽講座・若き演奏家の世界 各パンフ

卓話 繋がる「富岡惣一郎の世界・展」



昨年11月3日～11日まで「富岡惣一郎の世界展」を開催。市内の皆様のご好意により貴重な油絵・版画・リトグラフなど30点程お借りしての展示となり緊張と感謝の気持ちいっぱいのスタート。富岡画伯の作品は文化会館の緞帳や市役所壁画など製作されていますが、富岡惣一郎画伯の名前を知らない世代も多く郷土の素晴らしい画家を思い起こしてほしい…、また、妙高山の望める所に気軽に誰でも楽しめる小さな美術館があったら…という思いから企画致しました。

富岡さんは大正11年高田南本町に生まれ、平成6年72歳で永眠。小学生の頃より才能を発揮し、純白の雪景色に感動する青年。東京・三菱化成に勤務、アートディレクターを務める傍ら油絵を独学。

雪の風景に白絵の具は不可欠ですが、白は黄変しやすく、亀裂、剥離に悩み、メーカーに依頼するも叶わず、自ら研究。4年を経て1962年（40歳）「トミオカホワイト」が誕生！！しました。

アメリカの芸術家を育てるロックフェラー財団より招待を受け、ニューヨークに留学。

・富岡の白は温かみがある東洋の白 ・富岡の美学は引き算の美学 ・富岡の絵は俳句のようだと評価されます。（春の「歌会」の雑誌の表紙に良く使われる）

雪舟の「天の橋立図」からヒントを得て、バードアイ（鳥の目）になってヘリコプターやセスナ機で取材。外国での取材でカメラを盗まれ…反省。1日で100枚のスケッチを自分に課し、1分で描けるようになる。そして瞬時に背景を頭にイン

ギャラリー葵 楽庵 代表 飯野 ケイ 様

プットする集中力。筆は使わず、しなって吸い付きのよいペインティングナイフを刀鍛冶に特注。60cmもの大きいものから、小指程度のものまで使い分けて描くこだわり。

雪国巡礼では北海道・東北・中部・富士山・桂林・アラスカ氷河を回り、冬に取材、春～夏にアトリエで30～40点制作し、秋には個展を開かれます。富岡さんは、ケガや病気で入退院を繰り返していますが、精力的に取材・制作、また数多くのテレビや新聞の取材にも応じています。ナイフを持っていない病後は、筆に持ち替え、和紙に墨絵を描くあきらめない強い精神力をお持ちのお方でした。

北海道ニセコグリーンリーフ（旧プリンスホテル時）、各部屋に富岡さんの絵画が飾ってあり、トミオカホワイトという名前のバーラウンジをデザインしその名のカクテルまであります。その富良野で元細川総理大臣が、富岡さんの絵を大変気に入り、政府専用機、機内壁画、絵画を依頼。（67歳）それは現在も使用されているようです。

白と黒の画家が花火を描くようになる（1989年～）。そして早春-野・水・風・雲を描く、最後-星～を描き、そして72歳で星になりました。富岡惣一郎画伯は、『まわりに美しい自然がある事を幸せに感じてほしい、絵は心を豊かにする』とのメッセージを我々に残しました。

トミオカホワイト美術館との交流も深め、「富岡惣一郎生誕100年の記念展」を妙高山を望める小さな美術館で開催することが私の夢です、本日はどうもご清聴誠にありがとうございました。